

事業所名	グループホームいづえ楽寿 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成 16年 8月 25日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A: 現職 看護師・介護支援専門員 資格・経験 看護師歴36年以上/介護支援専門員歴2年 B: 現職 指定居宅介護支援事業所介護支援専門員 資格・経験 特別養護老人ホーム介護員歴9年以上・介護福祉士 C: 前職 介護型療養病棟看護師 資格・経験 看護師歴8年以上・介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>○「生きがいの追求」について入居者のできることを引き出し、言葉だけの形式的な「理念」にとられることなく、入居者の皆さんに日々の生活を「楽しんでいただく」ことを目指している。たとえば、歌、絵、ひらがななど個人の好きなことをしていただくようにしている。大正琴を教えてもらっている方もいた。</p> <p>○入居者の自己決定を大切に、食事、入浴、散歩など日常生活の基本についても、まず入居者の希望を優先して聞き入れるようにしていた。</p> <p>○受け入れ態勢として、夫婦の方が入って来られた場合、希望されたら同室も可能だった。親子で入られても別々の部屋を希望されたら別室にするなど、「個人の意思」を尊重していることが伺えた。</p> <p>○痴呆性高齢者の特質に配慮した安全な環境の提供を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮ら着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>○居間に畳のスペースがあり、長時間の座位が無理な方は寝転んでいられるよう配慮されていた。</p> <p>○豊かな自然の緑が眺められ、心癒される環境で天窓からの採光は自然の明るさを保っていた。換気も工夫がされ、落ち着いた快適生活空間を創り出していた。</p> <p>○月々の支払いや誕生会を活用し、できるだけ家族の訪問の機会を作ろうとしていた。入居者と家族が共に過ごす時間を作り、少しでも家族との触れ合いに心が慰められるようにしている。</p> <p>○職員間の人間関係については、お互いに短所も認め合い、協力して、入居者に明るく接することができるよう努力しているとのことだった。このことは職員のおだやかな態度、明るい表情から十分に読み取れた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でもできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)＝記述
<p>(1)周囲には山が見え緑に囲まれ、近くに公園があるなど、季節を感じられる環境がある。しかも痴呆性高齢者の身体的特性を追求した設備が、階段の手すり、窓、エレベーター、浴槽、シャワーなどに見られ、南向きの居間には天窓からの自然な照明と換気ができるなど設備の整っているところ。</p> <p>(2)入居者一人ひとりが自分のペースで自由に生活しているところ。なかでも自己決定・個人の意思が大切にされ、生きがいの追求ということで、各々の残された能力を生かしてできることや良さを見守りながらサポートされていて、入居者に明るい表情と笑顔が見られる。</p> <p>(3)できるだけ家族が訪れるよう支払いは現金にしている。毎月の誕生会に家族を招くなどして、家族と入居者との接点を多くしている。入居者の気持ちが慰められたり、寂しがまぎれたりするのはやはり家族に勝るものはないようで、家族とともに食事にしかけるのを楽しみにしているとのこと、入居者と家族との絆を大切にしている姿勢が伺えた。</p> <p>(4)なお近辺からの入居者が多く、誕生会には地域の方が踊りに来られるなど、地域の方との交流も良好である。</p> <p>(5)管理者は入居者と職員の特徴を把握しており、管理者の方自らが目標とするサービスのあり方を実践で示すことにより、他のスタッフもそれを見習う形で意思の疎通が行われている。またスタッフ同士も、人と人とのつながりを大切にチームワークがとれていて、相互に助け合う雰囲気作りでサービスの向上につなげるよう努力されている。このことは日々の記録からも伺えた。</p> <p>(6)現状に満足することなく、ケアサービスのあり方を常に改善していこうとする姿勢が見られ、研修会にも積極的に参加するなど、向上心が伝わってくる。</p>
特に改善の余地があると思われる点＝記述
職員が食事の時間に、目の見えない方や、嚥下の悪い方の食事介助に追われ、入居者と一緒に食事が摂れなかったところ。但しそれでも食事時の楽しい雰囲気は十分感じられた。また入居者が食事の準備にも、少し参加できたらと思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>○家族以外の人から電話で入居者の様子を聞かれた場合は「ご家族に聞いてください」と言い、他人に情報がもれないようにしている。</p> <p>○居室は入居者本位に中から施錠できるようにしている。但し、緊急時には職員はすぐに入室可能な体制がとられている。</p> <p>○個人のファイルの管理ができています。</p> <p>○一人ひとりの残っている力や経験をひきだしてあげる取り組みについては、その人のもっている力や強みを理解し、生きがいにつながるよう支援している。(日常生活の役割、歌、ひらがな、大正琴を習うことなど)。</p> <p>○声かけ、見守り等、日々の生活の中で自立支援を行う姿勢で取り組んでいる。また、心身の自立度の低い方もおられ、一人ひとりが個人のペースを保てるよう個別の配慮を心がけていることが見て取れた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。(記述)		
	<p>○スタッフが老人性痴呆研修会に年1回参加している。グループホーム研修会も年に1回あり報告書を提出し、職員への伝達浸透を図っている。また井原・芳井地区サービス事業所連絡会にも2ヶ月に1回参加するなど、サービスの向上に努めている姿勢が見られた。</p> <p>○人と人とのつながりを大切に管理者が職員の力量をしっかり把握した上でサービスの提供を心がけており、お互いの良さを認めて、チームワークの良さをサービスの向上に反映させよう努めている。</p> <p>○職員同士の話し合いや、各種の詳細な記録を通じて問題点の発見に努めている。第三者から見ても日頃の状況が読み取れる記録である。</p> <p>○苦情処理の体制については条文化され統一した行動が執られる体制になっている(実例はなかった)。</p> <p>○地域交流においても積極的にあり、法人として地域の人々が安心して過ごせるような貢献をしている。</p>		